

1. 開催概要

- ・ 開催日 : 2023年2月14日 (火) 18:00~20:00
- ・ 開催場所 : ZOOM 開催
- ・ 進行役 : 加藤 (本年度座長)
- ・ 議事録作成 : 加藤
- ・ 出席者数 : 3名 (出席者名は末尾参照)

2. 議事内容 (敬称略)

(1) 運営会議の報告

- ・ 今月開催の運営会議の内容を確認 (今回出席者は運営会議メンバー中心であった)。

(2) ITサイバースタッフフォーラムについて

- ・ 日本システム監査人協会 (SAAJ) とのコラボの状況説明
- ・ 2月8日に3回目会合を実施。
- ・ SAAJでは「テレワークを題材とした机上訓練」を2月25日に予定。
- ・ ITサイバースタッフフォーラムとBCAO関西から参加予定。
- ・ SAAJ検討の予定・課題内容等を検討

(3) 欧米の製品セキュリティ対策関連法令について 担当 : 野原

昨今、デジタル製品関連の情報セキュリティやそのサプライチェーン上の規制を行う法令等が多数制定されている。その動向につき、特に、米国とEUに関して報告。

① 米国 : 米国政府機関におけるサイバーセキュリティ改善に係る大統領令

<https://www.whitehouse.gov/briefing-room/statements-releases/2021/05/12/fact-sheet-president-signs-executive-order-charting-new-course-to-improve-the-nations-cybersecurity-and-protect-federal-government-networks/>

- ・ Section4に「ソフトウェアサプライチェーンセキュリティの推進」があり「ソフトウェアの可視化やセキュリティ情報の提供等を含む、政府調達ソフトウェアの開発のためのベースラインのセキュリティ標準を作成し、ソフトウェアサプライチェーンセキュリティを推進する」とある。
- ・ その具体策中に「購入者に対して、各製品のソフトウェア部品表 (SBOM) を直接提供するか、ウェブサイトで公開する」との記述あり。
- ・ これに関しては、厳しい規制のため、延期の養成も出ているとの指摘があり、下記ニュース記事を参照した。
- ・ (参照ニュース記事) SBOM 要件の延期を米議会に提出 : 防衛産業の団体が4つの理由を詳述

<https://iototsecnews.jp/2022/12/02/industry-coalition-urges-congress-to-hold-off-on-sboms-requirements-for-defense-contractors/>

② 米国 : ソフトウェアサプライチェーンの確保に関する覚書の発行

<https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2022/09/M-22-18.pdf>

- ・ 2022年9月14日、アメリカ合衆国行政管理予算局 (OMB) は、安全なソフトウェア開発手法の

実装を通じたソフトウェアサプライチェーンの確保 に関する覚書を発行した。

- ・ 各省庁等の機関に対して、本覚書発行後一定期間内に、機関が使用するソフトウェアの目録作成や、NISTのガイダンスに基づく自己適合証明書をソフトウェアベンダーに要求することなどが求められている。

③ EU：EUサイバーセキュリティ規格(EN 303 645)

(IPAの翻訳サイト) <https://www.ipa.go.jp/security/controlsystem/etsien303645.html>

- ・ 近い将来EUとUKで販売されるIoT機器とサービスにはこの規格が法律上の強制になると予想
① 13のセキュリティ対策

④ EU: 欧州AI規則案 2021/4/21 公表

(総務省訳) https://www.soumu.go.jp/main_content/000826706.pdf

- ・ AI利用時の基本的人権の保障や安全性を確保することで、AIに対する利用者 の信頼の醸成を目指すと同時に、AI利用の法的安定性や加盟国間での規制の調和を提供することで、AIの普及を狙う。
- ・ 適用範囲は、民間・公的機関を問わず、EU域内のAIシステムの提供事業者とその利用者。また、AIシステムのサービスがEU域内で利用される場合には、EU域外のAIシステム提供事業者や利用者

(4) 生成型AIに関する議論 担当：大塚

最近、ChatGPTに代表される generative AI (生成型AI) が登場し、大きな話題となっている。この概要と与える影響について、議論を行った (後記：本件、急激に進歩し、新しい技術・サービス・応用が報道されており、会合時点の議論は既に古い可能性があることに留意)。

● 問題提起 (大塚)

- ・ ChatGPTのすごいところは、日本語でちゃんと会話が成立しているところ。
- ・ これがいままでコンピュータアレルギーで一步引いていた人たちにも参加してみたい気持ちを持たせる大きな要因となった。
- ・ 会話の筋道をつけてくれて私にも理解できるように話してくれるとてもやさしいA I となっている。

それに対して、以下のような議論・コメント等がありました。

- ・ わからない際には、しらっと嘘の内容を、形式だけは整えて出力することがあるようですが、ChatGPTと別の学術分野に特化したようなものでは、記述の内容の参考文献をリスト化してくれるものができているようで、研究者さんの間では、3つぐらいのツールを組み合わせると「論文量産できる？」との情報が飛び交っています。
- ・ 野原さんが後日、実際に操作しての感想をいただいております。
 - 一言でいって、ちゃんと会話になっていて騒がれていることに納得しました。すごいです。
 - 回答を引き出す質問の方法を工夫 (ここが、人間でないとできないところかも。) しなければなりません聞き方によってかなり有効です。
- ・ このツールの普及によるリスクも評価する必要があると思われる。

3. 次回

3月29日 (水) 18時 - 20時、ZOOM 開催

4. 出席者 (敬称略 50音順)

大塚、加藤、野原

以上